

令和4年度第1回 難聴児の早期支援及び関係機関連携強化協議会 議事要旨

- 1 日時 令和5年3月27日
- 2 場所 東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室22（リモートで同時開催）
- 3 出席者 濱田豊彦座長、守本倫子委員、西脇恵子委員、越智大輔委員、佐々木勝委員、黒木倫子委員、荒川早月委員、木曾雄一委員、玉田さとみ委員
リモート 川上一恵委員、谷垣伸治委員、市川菊乃委員、鈴木正彦委員、山田参生委員
- 4 意見交換
資料についての説明・質疑応答の後、意見交換を行った。意見交換の概要については以下のとおりである。

（資料1 3-4頁 東京都における難聴児の状況）

- ・女性の社会進出や晩婚化などにより高齢出産が増え、低出生体重児など常時医療を必要とするお子さんが増えている。
- ・重複障害の場合は難聴の合併率は高く、他の合併症の診断に時間がかかり、難聴の診断は後回しになってしまうことが多い。結果としてろう学校などに繋がるのも遅くなるのは問題だと思う。
- ・ろう学校でもここ数年、医療的ケアを必要とするお子さんの入学が増えている。

（資料1 5-8頁 国の動向、都の取組）

- ・開業医の耳鼻科の先生は意外とABRを持っていないことも多く、気になっても6歳位までうまく検査できないことがある。
- ・医療機関におけるABRの購入が都で支援されることは、医師会から都内全域に周知していく。新生児に関してはどうしても産科での検査体制整備が必要になる。
- ・産婦人科医会としてもABRの購入支援は周知していく義務があると思うし、ABRを導入しなかったために気付かなかった疾患で大変な思いをしている方がいるとしたら、それは産婦人科医のなかで共有していきたいと思っている。
- ・東京都の調査でABRとOAEを両方持っているのに、なぜかOAEを使っている病院があると見たことがある。買い替えを促進するだけでは足りないのではないかな。
- ・新生児聴覚検査の公費負担の受診券は、里帰り出産などで都外の医療機関で検査を受けた場合も、各区市町村において償還払いというかたちで後から補助を受けられる仕組みになっている。

（資料1 9-13頁 課題整理）

- ・リファー率が区市町村によって異なるのは検査機器の違いだけではなく、医療機関の検査のやり方の違いも影響しているのではないかな。検査機器の使用方も広めていく必要があると感じる。

- ・ある親御さんから耳鼻科医に人工内耳を無理に進められたと相談を受けたことがある。出会う人によって、その後の方向性が決まってしまうのは課題だと思う。
- ・新生児聴覚検査をやる意味を産科で丁寧に説明しなければ、親御さんの不安が大きくなってしまう。
- ・検査結果の告知については、先生が告知しやすい方法を親御さんの受け取り方に配慮して、バリエーションをつくっておいたほうがよい。
- ・専門外のことには踏み込まずに、専門のところに繋ぐようにするべきで、正しい情報が届く環境を整備する必要があると思う。
- ・リファアーになってから精密検査を受けるまで、大きな病院だと2カ月位かかる。その間の親御さんの不安に寄り添えるシステムが必要と感じる。
- ・近場に児童発達支援センターなどの施設があったとしても、聴覚のスキルの高いスタッフがたくさんいる遠くの施設を選び、遠距離を通ってきて親御さんたちの大きな負担になっている。
- ・ろう学校の乳幼児教育相談は、難聴のお子さんを教えた経験があるだけではなく、子育ての経験のある方が担当することが多い。さらに、本来ならば聴覚障害についての色々な選択に深い知識があることも必要なので、それぞれの学校で人材を育成している。
- ・言語聴覚士とろう学校はお互いもっと連携していくべきで、今回、東京都が入って、これまでと異なるかたちで連携していけることに期待している。
- ・本格的に小さい時から手話を学ぶ環境をつくることも必要である。

(資料1 14-18頁 難聴児相談支援センターの機能について)

- ・保護者講座はすでに相当行われてきていることなので、資料も揃っているだろうし、それらを活用して速やかにスタートできるのではないかな。
- ・言語聴覚士なら乳児相談ができるわけではないので、乳児相談の先生は別途養成する必要がある。保育士さんのように保護者さんやお子さんに向き合っていく必要もある。センターではそのような人材育成の研修もやってもらいたい。
- ・手話にも口話にもメリットはある。様々な方法のなかで自分にあったものを選ぶという環境をつくるのが大切。
- ・聞こえない子供の兄弟の支援についても検討をお願いしたい。
- ・センターは継続的に数回通って経験的にいろいろなものについて知ることができる、あるいは経験的にやってみる機会を提供できる場にするのが望ましい。